



# 第29回日本農業工学会シンポジウム



日時:平成25年5月14日(火) 13:00~16:45

場所:東京大学弥生講堂 一条ホール (入場無料)



## 次世代へつなぐ生物生産

—激化する国際競争下での新たな農作業システムの展開—

基調講演:

環境変動下における日本農業の課題と方向

農研機構 中央農業総合研究センター 梅本 雅

講演:

基盤改良とプラウ耕乾田直播による新しい水田農業

農研機構 東北農業研究センター 大谷隆二

転換畑における耕うん方法による安定栽培技術

農研機構 中央農業総合研究センター 細川 寿

中山間の特性を活かした園芸生産技術

農研機構 近畿中国四国農業研究センター 長崎裕司

地域の「ひと」と「もの」を小さく楽しく結ぶ農的活動

島根大学 生物資源科学部 山岸主門

協賛:日本農作業学会, 日本農業気象学会, 農業機械学会, 農業施設学会,  
農業電化協会, 農業農村工学会, 生態工学会, 農業情報学会, 日本生物環境工学会

# 第29回日本農業工学会シンポジウム

日時:平成25年5月14日(火) 13:00~16:45

場所:東京大学弥生講堂 一条ホール (入場無料)

(東京都文京区弥生1-1-1, Tel. : 03-5841-8205)

アクセス:東京メトロ・東大前駅(南北線) 徒歩1分. 根津駅(千代田線) 徒歩8分

## 次世代へつなぐ生物生産

### —激化する国際競争下での新たな農作業システムの展開—

#### シンポジウムのねらい:

TPP参加交渉の是非をめくり、我が国の農業の国際競争力が議論の的となっています。また、農村に目を向ければ農業者の高齢化と担い手の減少、不作付け地や耕作放棄地の増加による農地の荒廃など、農業生産の基盤を根本から揺るがす深刻な問題が山積しています。その一方で、日本の農産物は高品質で安全性に優れることから消費者に支持される農業の広がりも認められます。このシンポジウムは、我が国の農業が豊かな国土を保全しつつ安全な食を安定して供給する役割を確実に次世代につなげて再生していくため、農業工学分野が取り組むべき課題と方向について、主として生産技術の側面から議論を深めることを目的としています。

## プログラム

13:00 開会の挨拶

基調講演:

13:10 環境変動下における日本農業の課題と方向

農研機構中央農業総合研究センター・領域長 梅本 雅

講演:

14:00 基盤改良とプラウ耕乾田直播による新しい水田農業

農研機構東北農業研究センター・上席研究員 大谷隆二

14:25 転換畑における耕うん方法による安定栽培技術

農研機構中央農業総合研究センター・領域長 細川 寿

- 休憩 -

15:00 中山間の特性を活かした園芸生産技術

農研機構近畿中国四国農業研究センター・上席研究員 長崎裕司

15:25 地域の「ひと」と「もの」を小さく楽しく結ぶ農的活動

島根大学生物資源科学部・准教授 山岸主門

総合討論:

16:00 国際競争環境下での適応に向けた新たな農作業システム

座長:瀧川具弘(筑波大学大学院・教授)

16:40 閉会の挨拶